

情報

(社)日本産業衛生学会

第2回騒音障害防止研究会開催報告

井上 仁郎^{*1}

1. はじめに

㈱日本産業衛生学会「騒音障害防止研究会」は、必ずしも法令やガイドラインに規定された騒音職場の労働者に限定せずに、労働者の騒音障害防止に関する研究課題を広く取り扱う研究会である（セイフティダイジェスト Vol.55参照）。

平成21年9月の第1回騒音障害防止研究会に続いて、第2回騒音障害防止研究会は、平成22年2月6日㈯ 14:00～17:00、産業医科大学産業生態科学研究所（北九州市）にて開催された。

東京、名古屋など全国から約20名の参加者に対して、9演題の発表があり、新型の耳栓チェッカー（ミドリ電子株式会社）やF-MIRE遮音性能測定装置（スリーエムヘルスケア株式会社）のデモンストレーションを交え、活発な討論と情報交換が行われた。

以下に、発表の概略を紹介する。

2. 発表の概要

第1部では、パナソニック電工電路株式会社健康管理室塚田月美氏から、社内の騒音職場における作業環境管理や衛生教育を定量的に評価しながら推進していることなど具体的な取り組みが報告された。職場における日常的な労働衛生教育の評価のあり方に示唆を与える内容であった。

ミドリ電子株式会社品質技術部飯島義則氏から、新型耳栓チェッカーの開発についての報告とデモンストレーションが行われた。続いて、スリーエムヘルスケア株式会社安全衛

生製品技術部傳田郁夫氏から、新しい防音保護具遮音性能測定技術の紹介として、F-MIRE遮音性能測定装置のデモンストレーションが行われた。これら2つの装置は、現場において耳栓を適切に選択し着用するために有用であることが示唆され、労働衛生教育にも有効であると考えられた。当日は、実際に参加者が測定を体験し、これらの機器の性

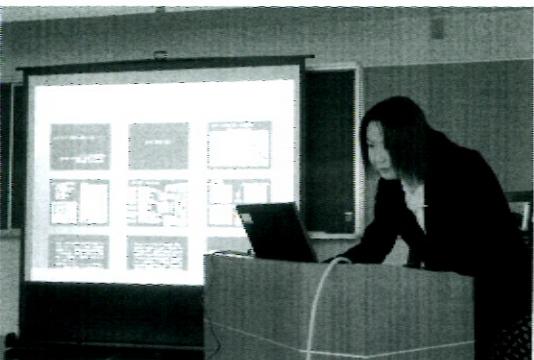


新型耳栓チェッカーの測定デモンストレーション



F-MIRE遮音性能測定装置の測定デモンストレーション

*1 産業医科大学 生体情報研究センター



発表の様子

能・操作性を含めて活発な議論が行われた。これらの機器の発展と活用を期待したい。

第2部では、産業医科大学において実施されている産業医学高度研究の成果が報告された。騒音職場で労働者が通信機器を使用して相互に連絡することを想定した場合の遮音と通信に関する研究の結果、耳栓着用の教育の影響を遮音値およびCT画像からの検討した結果等が報告された。

通信機器関連の報告では、産業医科大学産業生態科学研究所産業保健管理学川波祥子氏から、通信業務に従事する労働者のばく露音圧の評価として、コールセンターおよび電話交換室の労働者のばく露音圧レベルを測定し、その影響を評価した報告がなされた。環境騒音レベルの高い職場における研究成果の発展が示唆された。

産業医科大学産業生態科学研究所産業保健管理学宮村欣裕氏からは、騒音環境で用いる

通信機器に使用するイヤホンを用いた多音節語音明瞭度検査について報告がなされた。語音明瞭度の測定に男声を使用したことが特徴であった。

産業医科大学産業保健学部安全衛生マネジメント学近藤充輔氏からは、騒音環境下における通信機器の語音明瞭度、受信音量に関する研究として、騒音環境下における通信機器による騒音障害の防止を目的として、市販されている複数種類のマイクを騒音環境下で使用し、マイクの種類によって、受信者の語音明瞭度や受信音量に差がみられるか否かの検討が行われた。

一方、耳栓着用の教育の影響に関する報告では、産業医科大学産業生態科学研究所産業保健管理学宮村欣裕氏から、耳栓装着の教育が遮音値に与える影響として、被験者に口頭による簡単な防音保護具の装着方法の教育を行っただけの時と、その後、継続して口頭および文書による防音保護具の着用方法に関する教育を行い、どの程度遮音性能が向上するか検討がなされた。

産業医科大学産業医学研究支援施設生体情報研究センター井上仁郎氏からは、教育の前後における耳栓着用状態のCT画像による検討として、外耳道内における耳栓の圧縮状態をCT画像で表示し、十分な遮音を得るために正しい耳栓の着用法を評価するための検討が行われた。

これらの発表に対して質疑応答がなされ、活発な議論が行われた。

3. 騒音障害防止研究会の今後の予定

平成22年度には2回の研究会を開催する予定である。第3回は、第83回日本産業衛生学会（平成22年5月26～28日、福井市）の会期中の開催を予定している。今後の研究会の日時や場所に関する情報は、決まり次第ホームページに掲載する予定であるので、ご参照頂きたい。（URL: <http://www.souon.jp/>）